
2024年度 東京都 I 類B
教養論文
講評&解答例

れっく **LEC** 東京リーガルマインド



0 001112 237667

KL23766

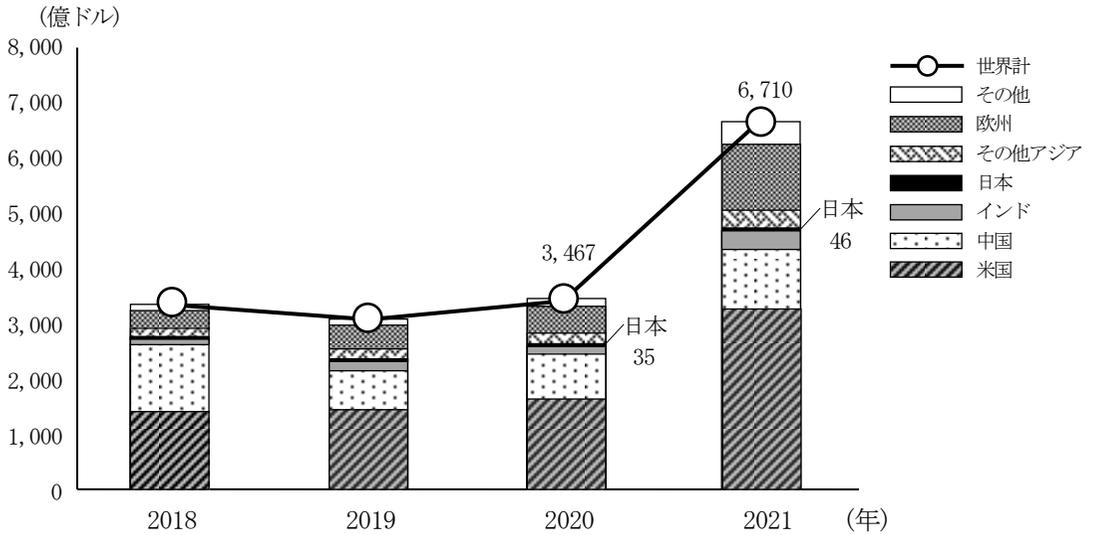
教養論文

問題

- (1) 都市が抱える多くの課題を解決し、新たな価値を生み出すために欠かせないのがイノベーションであり、その原動力であるスタートアップを生み・育てていくために、別添の資料から、あなたが重要であるとする課題を200字程度で簡潔に述べよ。
- (2) (1)で述べた課題に対して、都はどのような取組を進めるべきか、あなたの考えを述べよ。
なお、解答に当たっては、解答用紙に(1)、(2)を明記すること。

資料1

世界のベンチャーキャピタルの投資額

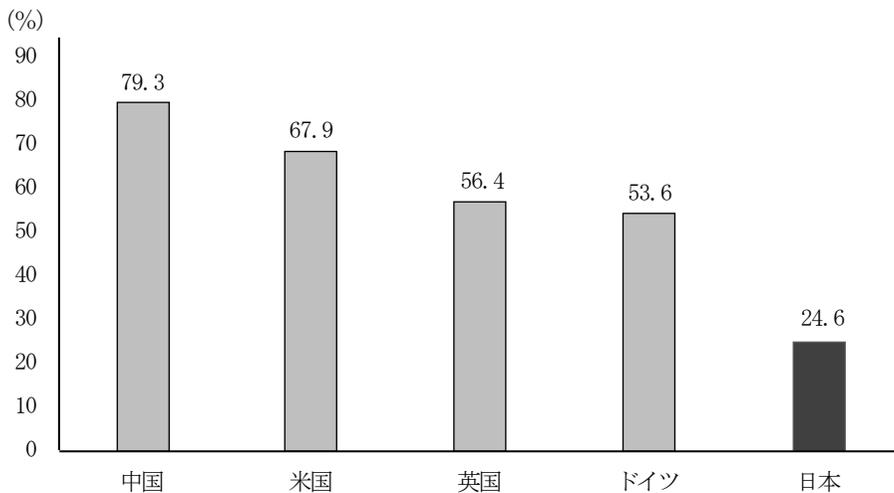


注：ベンチャーキャピタルとは、将来有望な未上場企業（いわゆるベンチャー企業やスタートアップなど）の株式などに投資を行う投資会社をいう。

出典：経済産業省「令和4年版通商白書」より作成

資料2

起業を望ましい職業選択と考える人(18～64歳)の割合

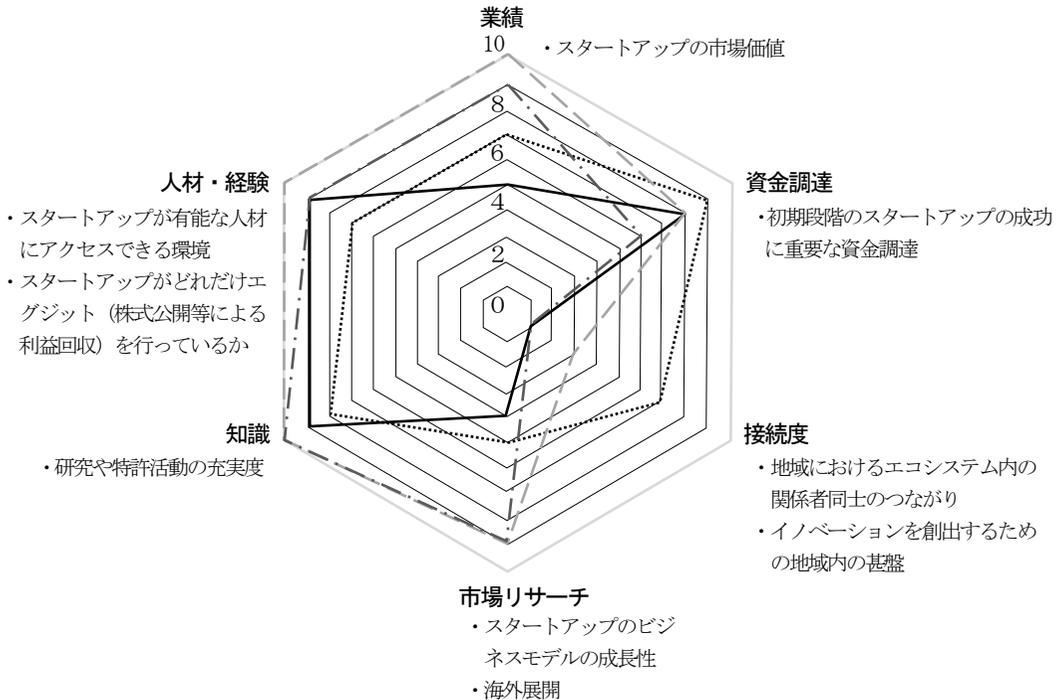


出典：内閣官房 新しい資本主義実現会議「第1回スタートアップ育成分科会配布資料（令和4年10月）」より作成

資料3

世界の都市・地域別に見たスタートアップ・エコシステムのランキング(2022年)

- シリコンバレー (1位)
- 北京 (5位)
- .-.- 上海 (8位)
- ソウル (10位)
- 東京 (12位)



注1：本ランキングは、都市・地域別の起業環境を、業績、資金調達、接続度、市場リサーチ、知識及び人材・経験の6項目で10段階採点したもの。

注2：スタートアップ・エコシステムとは、ベンチャー企業や大企業、投資家、研究機関など、産学官の様々なプレイヤーが集積又は連携することで共存・共栄し、先端産業の育成や経済成長の好循環を生み出すビジネス環境のこと。自然環境の生態系(エコシステム)になぞらえてこのように呼称される。

出典：Startup Genome「Global Startup Ecosystem Report 2022」(2022年6月)より作成

論 点

- 1 資料1～3から読み取れる、スタートアップを生み・育てていくために重要であるとする課題
- 2 1に対する都の取組

解答例

(1) 資料1から、2021年に世界のベンチャーキャピタル投資額がほぼ倍増しているのに対して日本の投資額は少なく、それは資料3で資金調達力が中位であるのにも表れている。他方資料2から、起業を望ましいと考える日本人割合は約25%で、先進5か国中、著しく低水準なのがわかる。また資料3から、東京の接続度が最低水準なのも読み取れる。以上から、スタートアップを生み・育てるにあたり、資金調達力の強化、アントレプレナーシップの育成、ネットワーク構築が課題である。

(218字)

(2) 以上の課題に対し、都は以下の取組を進める必要がある。

第1に、スタートアップ支援に関わる団体と協働し、活動資金を支援する仕組みを構築する。スタートアップが事業化を目指すにあたり、技術やアイデアを具体化するための初期の資金は不可欠である。しかし、資金供給が不十分なことから、起業志望者が起業を諦めることも少なくない。そこで都は、大学をはじめ国内のベンチャーキャピタルが運営するファンドに対して出資を行う。さらに、国家やJETROなどとも連携し、海外のベンチャーキャピタルの日本展開を支援する。その上で、各ベンチャーキャピタルがスタートアップの支援先を選定し、資金供給を行う仕組みを構築する。これにより、スタートアップに対する資金調達の敷居を下げ、彼らの挑戦と飛躍を支援していく。

第2に、アントレプレナーシップを醸成する教育を、小学校から大学まで幅広く展開する。起業を望ましい職業選択と捉えるにあたり、学生時代の教育の影響は大きいと考えられる。そこで都は、小中高生を対象に、区市町村とも連携しながら、総合的学習の授業時間等を活用し、起業家を講師に招いての起業家教育の実施拡大を図る。他方、都立大学においてアントレプレナーシップ育成を目的とした単位認定講座を開設する。具体的には、スタートアップでのインターンや、学生でチームを組んで都の創業支援サービスを活用しながら社会問題解決をテーマとする事業化を体験できる機会等を設ける。これらの取組により、スタートアップの担い手を多数育成し、起業促進の効果が期待される。

第3に、多様な主体がつながり、スタートアップが必要とする支援を提供できる基盤を構築する。東京には知の拠点たる大学や研究機関が集積するとともに、企業、経済団体等、スタートアップに関わる多様な主体が存在する。しかし、それらが独立して存在し、有機的なつながりが十分に形成されていない現状がある。そこで、都が主体となってそれら主体の連携を強化する。同時に、City-tech.Tokyo 等の大規模イベントを定期的に開催し、スタートアップと関係機関を結び付ける。併せて、先述の連携の中で、今後、急成長が見込まれるスタートアップを選抜して支援を行う。これ

により、スタートアップのさらなる成長を促進していく。

変化が激しく将来予測が困難な現代において、新たな価値の創造を目指すスタートアップは、都とともに社会問題を解決し、未来の東京を牽引する大いなる原動力となりうる。私は都庁職員として、スタートアップを生み・育てていくための施策に全力で取り組む所存である。(約 1380 字)

講 評

難易度：B [標準]

『未来の東京』戦略 version up 2024：バージョンアップの観点「国際競争力の強化」からの出題である。従来と出題傾向が変化した 2023 年に対し、今年の出題分野は 2022 年以前に戻ったといえる。

3 資料から読み取れる出題意図の把握は容易だと言えるだろう。設問条件に「生み・育てていく」とあるため、「生む」「育てる」それぞれに関わる課題、取組に言及すること。資料 3 を中心に、資料の用語に対して具体的な説明が施されており、それを活用しながら課題、取組を構想することが可能である。論点設定が行いやすい出題である分、(2) の取組についてどれだけ論理的、かつ、具体的に論じられているかが評価の分かれ目になると推察される。

れっく **LEC** 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド

(C) 2024 TOKYO LEGAL MIND K. K. , Printed in Japan

無断複製・無断転載等を禁じます。

KL23766